

名古屋大学博物館野外観察園展示室の展示記録 2015年11月から2016年10月まで

Record of the exhibition at the Nagoya University Museum Botanical Garden
from November, 2015 to October, 2016

吉野 奈津子 (YOSHINO Natsuko)

名古屋大学全学技術センター

The Nagoya University Technical Center, Chikusa-ku, Nagoya 464-8601 JAPAN

名古屋大学博物館野外観察園展示室で2015年11月から2016年10月までに名古屋大学博物館のサテライト展示を6つ行った。本報告はその記録である。展示の企画、展示者との調整は野崎ますみ（名古屋大学博物館）が行い、会期中の管理は吉野が行った。展示物に関しては展示者が作成を行っている。

(1) 生き物のかたちとおもしろさ

主催：名古屋大学博物館

会期：2015年11月5日（木）～2015年11月13日（金）

入園者数：53人

担当：西田 佐知子（名古屋大学博物館）、藤原 慎一（名古屋大学博物館）



図1. チラシ.



図2. 展示室の様子.

はじめに

野外観察園で見られる植物や虫たちを題材として、名古屋大学の学生たちが展示制作に挑みました。宇宙、文学、機械…、博物館に集まったかれらの専門はさまざまです。そんな学生たちは一体どのような切り口から課題に取り組んだのか!?

ぜひ皆さんの目でお確かめください!

展示品 (図1, 図2): 学生による展示ポスター (7点)

(2) 名大の蛾 I 秋冬編

主催: 名古屋大学博物館

会期: 2015年11月24日(火)~2016年2月19日(金)

入園者数: 753人

担当: 西田 佐知子 (名古屋大学博物館)

ごあいさつ

「チョウは好きでもガは嫌い」という人が多いかもしれませんが、
そういう人は損? をしているかもしれません。

ガ(蛾)は、チョウと同じチョウ目というグループに属す昆虫です。

チョウよりガの方が、実はずっと高い多様性を持っています。日本にいることがわかっているチョウ目の昆虫は約5300種ですが、そのうちガが5090種以上を占め、チョウは250種足らずにしかありません。ガは地味なものから派手なものまで様々であり、生活もチョウより多様で、ひじょうに興味深い生き物です。

今回展示している解説ポスターは、浅野邦史さんという在野の昆虫研究者が名古屋大学で採集した蛾をテーマに作ったものです。浅野さんが名大で採集・記録した蛾は、数百種にのぼります。また、浅野

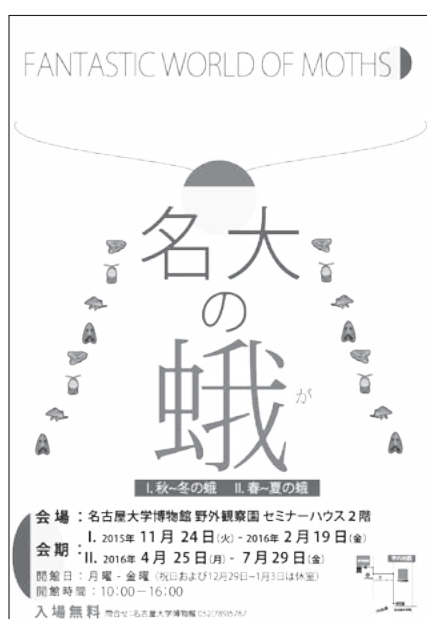


図3. チラシ.



図4. 展示室の様子.

さんは蛾の生態についても調べ、それぞれの蛾が食べる植物や面白い生活史についても解説しています。今回紹介するのは、浅野さんが作られた解説のごく一部ですが、これから蛾の多様性や生物の面白さを感じていただけたら幸いです。

展示作品（図3, 4）：

標本（ドイツ箱2箱, ヨナグニサン1点, ナカオビキモンホソガ1点, ハマボウチビガ1点, 未確認種2点）

解説ポスター（33点）

写真（10点）

（3）博物館友の会写真サークル写真展

主 催：名古屋大学博物館

会 期：2016年2月29日（月）～4月15日（金）

入園者数：511人

担 当：野崎 ますみ（名古屋大学博物館）、吉野 奈津子（名古屋大学博物館）

ごあいさつ

「名古屋大学博物館友の会写真サークル 写真展」にお越しいただきありがとうございます。

名古屋大学博物館友の会写真サークルは2013年10月に発足し、講師三矢保永先生（名古屋大学名誉教授・名古屋産業科学研究所上席研究員）指導の下、年に数回集まり、現在13名が腕を磨いています。会員は写真歴数十年のベテランからサークルに入って初めて一眼レフカメラを手にした初心者まで、撮影対象も風景・人物・植物・動物など様々です。

日頃の成果を披露させていただくため、昨年につき2回目の写真展を開催する運びとなりました。さらに今回は、写真サークルがボランティアで行っている博物館イベント撮影の写真もご紹介します。

どうぞ個性あふれる作品をお楽しみください。



図5. チラシ.



図6. 展示室の様子.

展示作品（図5, 6）：写真（28点）

湿原に棲む妖精,
閑静な佇まい,
えっ！おれ？,
夕映えの港,
青もみじ,
腕組み,
あとちょっと,
サクラ・さくら・桜,
深雪の三ノ沢岳,
博物館イベント紹介

雑木林の鼓動,
古木の勢い,
ネコじゃないよ！,
秋祭,
雨上がりの水鏡,
無垢,
押し花火,
大杉谷堂倉滝,
足の向く先は姫路城,

雷鳥の冬支度,
武骨な佇まい,
潮騒,
塔の眺め,
初夏の散歩道,
夢殿宝珠露盤,
夜の虹,
早春の雪玉軌跡,
森の玉手箱,

（4）名大の蛾Ⅱ 春夏編

主催：名古屋大学博物館

会期：2016年4月25日（月）～7月29日（金）

入園者数：626人

担当：西田 佐知子

展示作品（図7）：

解説ポスター（40点102種）

キノカワガ,
ヤマトカギバ,
アオイラガ,
オニベニシタバ,
マミメマドガ,
オビヒトリ,
アカエグリバ,
ムクゲコノハ,
ミノウスバ,
シマキリガ,
コブノメイガ,
フタオビモンメイガ,
エゾギクトリバ,
ヨツボシホソバ,
スカシコケガ,
アトモンヒロズコガ,
キオビミズメイガ,
ツヅリモンハマキ,
アワノメイガ,
ネアカマダラメイガ,
アワヨトウ,

オオボシオオスガ,
ウスミドリナミシヤク,
イイロリンガ,
トビイロトラガ,
コガタキシタバ,
ホタルガ,
アシブトクチバ,
マダラトガリホソガ,
コスズメ,
コヨツメノメイガ,
シロオビノメイガ,
ブドウトリバ,
ヒサカキハモグリガ,
ゴマフシロキバガ,
クロエリメンコガ,
クロハネシロヒゲナガ,
チャハマキ,
クロモンツヤキバガ,
アカマダラメイガ,
タマナヤガ,
オオサザナミヒメハマキ,

アトキハマキ,
ヒメシロモンドクガ,
ハウジャク,
コシロタバ,
ニジオビベニアツバ,
アミメキシタバ,
マダラエグリバ,
ヤマトニジュウシトリバ,
スジキリヨトウ,
ヒロオビトンボエダシヤク,
カニクサシダメイガ,
クヌギキムモンハモグリ,
ウスキニジュウシトリバ,
トビマダラモンメイガ,
オビカクバネヒゲナガキバガ,
キベリハイヒゲナガキバガ,
カレハチビマルハキバガ,
ウスオビヒメマルハキバガ,
シロスジカバマルハキバガ,
シロスジベニマルハキバガ,
オオウスベニトガリメイガ,

ホシホウジャク,
クロスジヒメアツバ,
タバコガ,
イガ,
カシノシマメイガ,
ウスモクエダシャク,
キエダシャク,
クスサン,
コスズメ,
チャエダシャク,
マメドクガ,
クワコ,
ホシヒメホウジャク,

ミツモンキンウワバ,
コナガ,
ハスモンヨトウ,
ウスグロイガ,
コメシマメイガ,
エルモンドクガ,
ギンスジキンウワバ,
シロヒトリ,
ゴマフリドクガ,
ナガバヒロズコガ,
モンムラサキクチバ,
シロスジツトガ,
ボクトウガ,

ワタアカキリバ,
シロシタヨロウ,
マメノメイガ,
コイガ,
ノシメマダラメイガ,
オビヒトリ,
オオエグリシャチホコ,
コウモリガ,
チャマダラキリガ,
トビスジトガリナミシャク,
ナミスジチビヒメシャク,
ホシオビコケガ,
マダラエグリバ

標本（ドイツ箱7箱，ドクガの仲間15点）

写真（17点）

ドクガにかぶれた症状を示したムラージュ（写真パネル1点）



図7. 展示室の様子.

(5) ユーフラテスの春

主催：名古屋大学博物館

会期：2016年8月8日（月）～10月21日（金）

入園者数：650人

講演会：2016年10月7日（金）名古屋大学博物館講義室

1、門脇 誠二（名古屋大学博物館）

「名古屋大学によるシリア・ユーフラテス河流域の調査」

2、星野 光雄（名古屋大学名誉教授）

「シリアの印象—ユーフラテスの自然と街、人々」

講演会参加者：104人

担当：門脇 誠二

ごあいさつ

2005年から2011年の春に、名古屋大学の研究者チームがシリアを訪れ、地球科学・環境科学・考古学のフィールドワークを行いました。この地域は、チグリス河とユーフラテス河沿いに古代メソポタミア文明が栄えたことで有名です。その古代都市を築いた民族の1つであるセム系部族の故郷と考えられているのが、シリアのユーフラテス河の南に広がるビシュリ地域です。

この一帯に残された古代遺跡を調査し、特にメソポタミア文明の頃の遺跡の発掘を行いました。また、遺跡の年代を測定したり、当時の人々が暮らしていた環境を知るために、自然科学調査も行いました。この研究成果は、これまで論文や報告書の形で出版されてきました。その幾つかを本展示内のテーブルでご覧いただくことができます。

本展は、この調査をより身近に感じていただくために、ユーフラテス河の調査地で出会ったシリアの壮麗な自然、古代遺跡、平和な街と人々の姿を写真パネルなどで紹介しています。報道で伝えられるシリアの悲況が一刻も早く終息し、展示されている写真に見られるようなシリア本来の平和で穏やかな姿が戻ることを祈念しています。



図8. チラシ.



図9. 展示室の様子.

展示作品（図8, 9）：

風景パネル（2点）

解説付き写真パネル（34点）

- ・ユーフラテス河の南の高原で遺跡調査を行い、350以上の遺跡を記録しました
- ・メソポタミア文明の頃の集落遺跡「カーネム・アル・アリ」の発掘調査
- ・遺跡発掘の様子。シリアの人々から多くの協力を得て調査が行われました
- ・ユーフラテス近くの高原に広がる古墳（メソポタミア文明の頃）。石膏の積石塚です
- ・ユーフラテス河の堆積物を調べるためのボーリング調査
- ・野外調査での疲れを食事が癒してくれました。シリアの共同研究者と一緒に
- ・ユーフラテス河の礫がぎっしりと積み重なった地層
- ・約9千年前の石器（スケールはシリアの25ポンド硬貨）
- ・ユーフラテス沿いの高原は、石膏が基盤になっています
- ・アシなどの植物を置換して沈積した石膏のジュールを「ユーフラテス小僧」と名付けました
- ・アスファルト鉱床。砂漠の熱で溶け流れ、地表を覆っている
- ・ユーフラテス河のめぐみで育つ麦や木々
- ・川から離れるとステップ・砂漠が広がる
- ・砂漠の足跡
- ・「春」と言っても既に暑い。スイカの前種が実る
- ・どこまでも広がる砂漠
- ・むき出しの台地には火山活動の痕もよく残る
- ・砂嵐の真ただ中。景色が赤く見える
- ・ユーフラテス河のクルーズ？
- ・クレープのような薄いパンが伝統的
- ・橋の上から魚釣り
- ・ユーフラテスのほとりで水タバコ
- ・のどかなウマイヤド・モスク
- ・ユーフラテス河畔の都市、ラッカ
- ・アレppo城前のにぎわい
- ・ローマ時代の隊商都市パルミラ
- ・ローマ時代の隊商都市パルミラ（凱旋門もベル神殿も今は破壊されてしまった）
- ・約9千年前の石器づくり工房跡（ボール・スバイ）
- ・羊飼いの少年、春休みの手伝い？
- ・春はどこの農家も忙しそう
- ・買い物帰り？砂漠も日常生活の圏内
- ・日本でもおなじみ 現地では「シャワルマ」という
- ・几帳面な八百屋（ラッカ近郊）
- ・学校帰り？（ラッカ市）

標本（8点）

ユーフラテス河の礫、	石膏で固着したユーフラテス河の礫、	石膏の結晶、
ユーフラテス小僧、	ユーフラテス河の礫から作られた石器、	約9千年前の石器、
工房で使われた石材、	ユーフラテス近郊の堆積岩に含まれる化石、	天然アスファルト

